

平成30年度 学校評価アンケート分析結果

宮城県登米総合産業高等学校

1 調査対象

- ・生徒（回収率 99.3%） ※前年度(92.9%)
- ・保護者（回収率 82.7%） ※前年度(71.7%)
- ・教職員（回収率 100%） ※前年度(96.3%)

2 調査期間

- ・平成30年11月16日～30日

3 調査内容

(1) 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている	(学習指導)
(2) 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている	(生徒指導)
(3) 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。	(進路指導)
(4) 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている	(教育相談)
(5) 部活動が活発に行われている	(部活動)
(6) 生徒会活動が活発に行われている	(生徒会活動)
(7) 有意義な学校行事がある	(学校行事)
(8) 地域の人と関わる機会を多く取り入れている	(特色ある学校づくり①)
(9) 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる	(特色ある学校づくり②)
(10) 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている	(防災教育)
(11) 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている	(開かれた学校づくり)
(12) 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている	(施設設備)
(13) 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる	(いじめ問題)
(14) 環境美化に取り組んでいる	(環境美化)
(15) 学校生活は充実している	(総合満足度)

4 調査方法

- ・質問紙法

- ・項目別で「当てはまる」と「大体当てはまる」と回答した割合の合計（以下「肯定的評価」という）が高いのは、生徒は「進路指導」,「特色ある学校づくり①」,「特色ある学校づくり②」,と続き、保護者は「特色ある学校づくり②」,「施設設備」,「特色ある学校づくり①」と続く。（下記参照）
- ・生徒の肯定的評価のうち、「進路指導」が前年より7.1ポイント上回った。
- ・保護者の肯定的評価のうち、「環境美化」が前年より11.4ポイント上回った。
- ・「総合満足度」は、生徒で昨年度より約1.0ポイント上回り、保護者の肯定的評価は、昨年度より0.9ポイント上回った。
- ・生徒、保護者、教職員それぞれの観点の違いから、肯定的評価が20ポイント以上乖離した項目は「開かれた学校づくり」・「いじめ問題」・「環境美化」で、それぞれ教員の評価に比べ生徒の評価が26.7, 26.9, 20.4ポイント下回った。
- ・肯定的評価が最も低かったのは、「いじめ問題」で、保護者の62.3ポイントであった。

《調査内容について前年度結果との比較増減》(%)

		【生徒】		【保護者】		【教職員】	
調査項目		肯定的評価	比較増減	肯定的評価	比較増減	肯定的評価	比較増減
1	学習指導	75.7	▲0.2	86.1	7.1	94.9	0
2	生徒指導	82.8	2.1	80.3	5.6	91.0	▲6.4
3	進路指導	87.9	7.1	87.0	7.0	93.6	2.6
4	教育相談	82.4	2.6	80.1	8.5	96.2	▲1.2
5	部活動	82.9	0.1	80.3	▲0.6	85.9	3.8
6	生徒会活動	77.8	1.4	79.9	3.4	87.2	9.0
7	学校行事	74.8	0.2	83.2	4.5	93.6	2.6
8	特色ある学校づくり①	87.8	0.9	88.4	▲0.8	96.2	3.9
9	特色ある学校づくり②	87.2	▲0.1	93.4	2.8	94.9	1.3
10	防災教育	84.8	▲0.8	76.2	▲6.0	94.9	1.3
11	開かれた学校づくり	73.3	▲14.3	88.2	▲4.9	100	1.3
12	施設設備	80.9	▲0.1	91.5	3.2	91.0	10.2
13	いじめ問題	70.5	0.3	62.3	4.6	97.4	2.5
14	環境美化	69.3	3.2	86.3	11.4	89.7	▲0.3
15	総合満足度	77.5	1.0	83.9	0.9	—	

1. 授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている（学習指導）

「授業が工夫され、学習した内容が身に付く指導が行われている。」

<分析>

H27～H30の評価結果及び学年ごとの評価結果も参考に分析を行った。

【生徒】

・肯定的意見（「当てはまる」「大体当てはまる」）は75.7%と昨年度と比較して微減となったが、内訳を見ると「当てはまる」の回答が1.5ポイント上昇した。

【教職員】

・肯定的意見（94.9%）の数値は昨年度と全く同じだが、内訳を見ると「当てはまる」の回答が1.2ポイント上昇した。

【保護者】

・昨年度と比較して肯定的意見が7.1ポイント上昇（86.1%）した。

【学年ごとの評価】

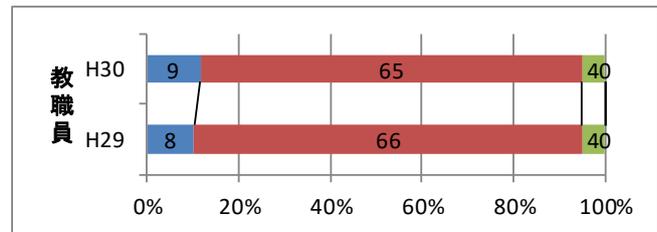
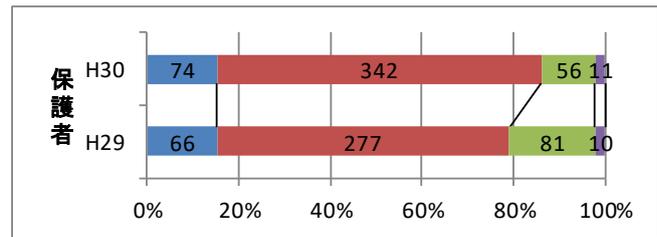
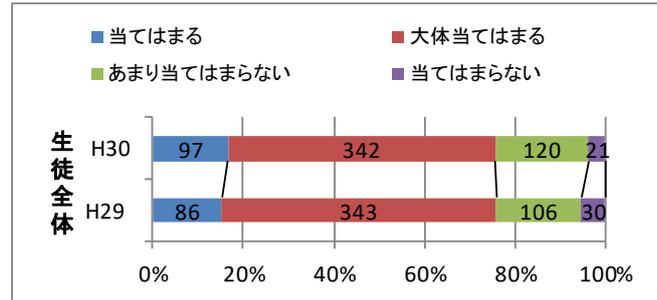
・例年の傾向であるが、2年生で肯定的意見が大きく減少している。

<改善に向けた取り組み>

・保護者の回答において肯定的意見が大きく上昇した点について、各授業で宿題を課す取り組みを行ったこと、各種の講習が早期・放課後に行われたことなどがこうした評価につながったと考えている。これらの取り組みは学習に取り組む動機付けにもなっている。教務部においてもより効果的な実施を模索し、各学科・教科での実践に働きかけを行っていく。

・目標を見据えにくい2学年への働きかけについては、教育課程の全体を通して考えていく必要がある。当然、学年の役割は大きい。教育課程委員会や学力向上プロジェクト委員会等を通して学校全体の課題として取り組んでいく。

・一昨年度より以前の評価と比較すると、肯定的意見は大きく上昇している（生徒H27・66.3→H28・65.6→H29・75.9→H30・75.7）。こうした結果を踏まえ、先生方が自信を持って指導に当たれるよう支援していく。



2. 挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）

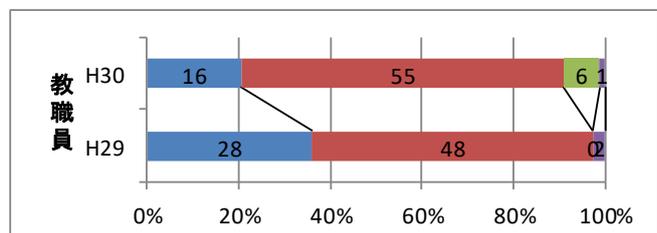
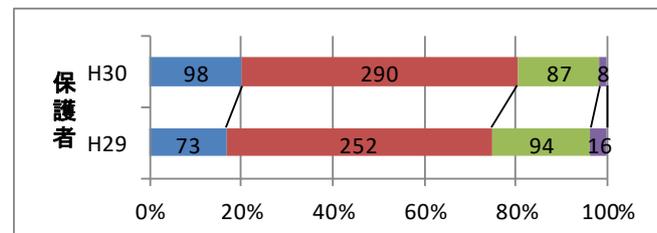
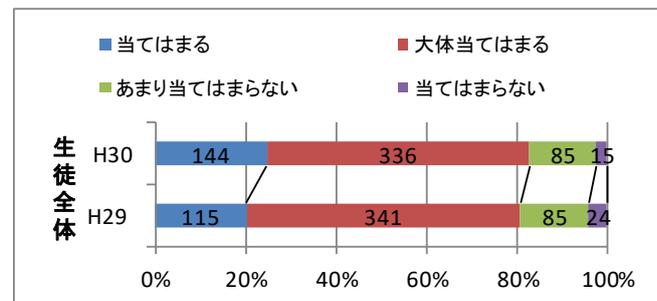
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

肯定的回答が生徒・保護者において80%を超え、昨年度との比較においても生徒では2%、保護者においては5.6%の上昇となった。登米総TSS確立に向けた取組において、「愛」スローガンを掲げた取組や、図書部の全面的協力を得ての遅刻指導、4月からの全職員による朝の立ち番指導の効果が少しずつ現れてきた。また、学校メール配信による連絡や、校長室便りにおいて学校の取り組みの紹介や生徒の活躍等の情報発信も一助となった。しかし、教職員において肯定的回答が90%を超えているものの、昨年度より6.4%減少している。「あまりあてはまらない」の回答数が6と見逃せない数値となっている。

<改善に向けた取り組み>

登米総TSS確立に向けた取組の継続は勿論のこと、教育活動の様々な場面において地道に全職員で取り組む必要がある。生活習慣の確立に向け生徒が見通しを持ちながら行動できる支援が必要である。



3. 進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）

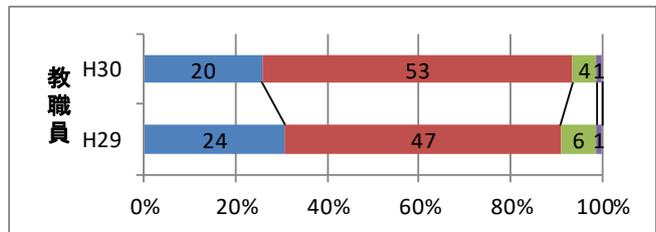
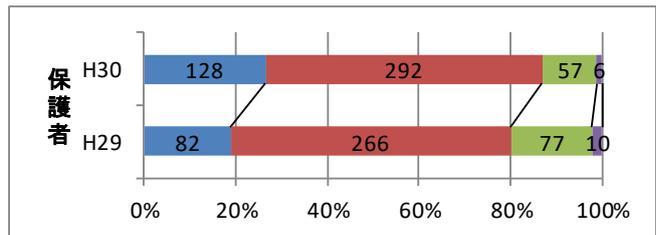
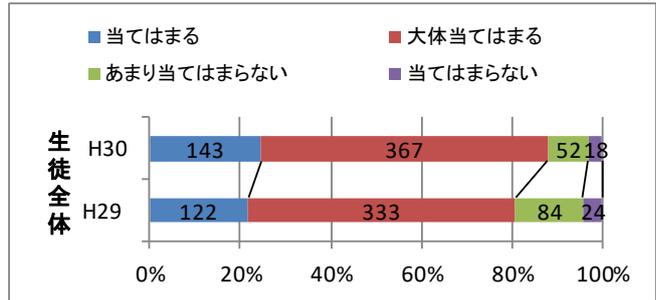
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

「進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている」という質問に対し、肯定的評価「当てはまる」「大体当てはまる」と回答した割合が、生徒87.9%、保護者87.0%、教職員93.6%となっており、本校の進路指導に対して概ね評価いただいていると考える。これは、各部、各学科、各学年、各教科等での学習活動および常に進路を意識した指導を継続して行っていることや各種進路行事の実施が、効果を挙げていると考える。また、保護者に対しては「進路NEWS」の発行および3年生の保護者に対しては「進路保護者説明会」を開催しており、生徒、保護者の本校の進路活動に対する共通理解、進路指導の協力を得る一因にもなっていると考える。

<改善に向けた取り組み>

進学、就職について共に適切な指導が出来るように、生徒、保護者、教職員が、さらに共通理解を図り、生徒の立場に立った進路達成までの進路指導計画の構築、体制を整え進めて行く。また、生徒の進路達成までは進路指導部だけの力では成し得なく、学校の総合力であると考えているので、各部、各学科、各学年、各教科と連携と協力を図り、さらに改善していく。また、生徒、保護者に積極的に進路指導室の開放、活用を進め、さらに進路情報の発信にも努めたい。



4. 教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）

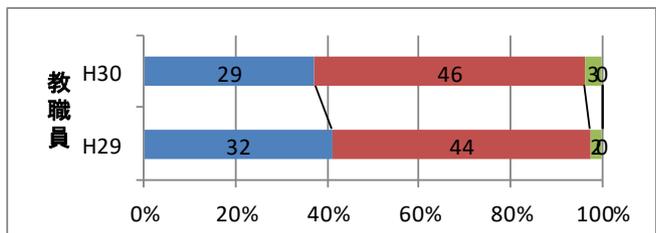
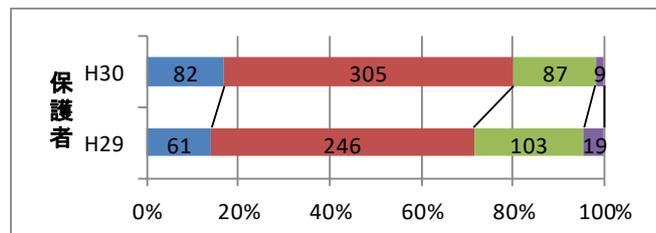
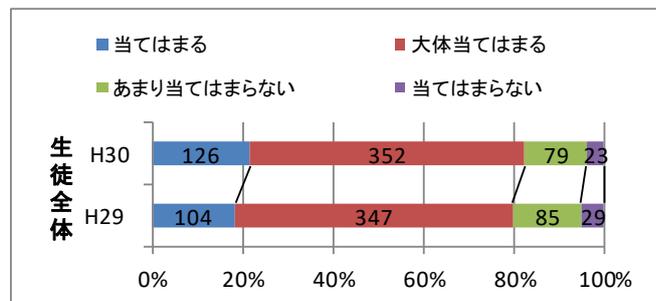
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

H28から30年度の3年間で肯定的意見の割合は以下のような推移であった。
 生徒 70.2→79.8→**82.4%** 保護者 73.3→71.6→**80.1%** 教職員 96.1→97.4→**96.2%**と、いずれも8割を超えている。生徒に悩みや問題があったとき、担任を始め周囲の教職員が素早く対応し、必要に応じてカウンセラーやスクールソーシャルワーカーにつなげられた。一方で案件が起きたとき相談できる体制はあるが、チームで対応するための組織体制を速やかに整えるべきだとの意見を頂いた。

<改善に向けた取り組み>

これまで主に学年からの要望に教育相談担当が応じてケース会議を設定していたが、誰に相談、報告し、どの段階でケース会議を開くべきか目安となるフローチャートを作成して提示し、情報共有やアドバイスをより早い段階で実施できるようにする。



5. 部活動が活発に行われている（部活動）

【分析および改善に向けた取り組み】

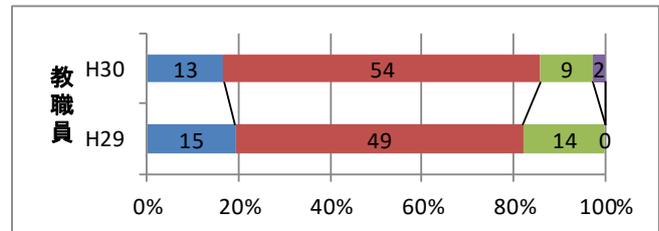
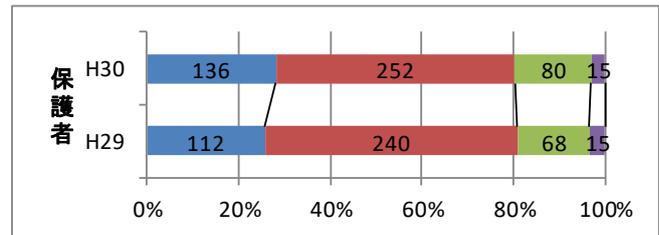
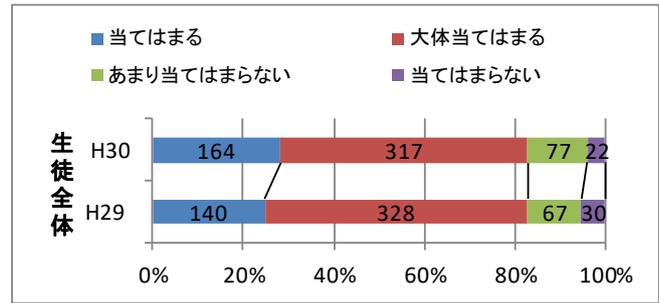
<分析>

肯定的回答が生徒で0.1%，保護者4.5%，教職員において3.8%の上昇となった。運動部，文化部とも活発に活動し，アーチェリー部の全国・東北大会出場，空手道部の東北大会出場等、各種大会で上位入賞を果たした。特に家畜審査競技やプロジェクト発表大会等で農業クラブの活躍が目覚ましかった。

<改善に向けた取り組み>

次年度も部活動への積極的参加を呼びかけ加入率100%を目指すために，年度初めの部活動登録まで生徒会からの呼びかけや，部員等による勧誘活動を実施する。

部活動での努力が就職・進学にも好影響を与えることを生徒・保護者に浸透させていきたい。



6. 生徒会活動が活発に行われている（生徒会活動）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

肯定的回答が生徒で1.6%，保護者では4.1%の上昇となり80%に迫る割合となった。教職員においては80%を超えた。しかし，活動において生徒の自主性という点での課題は残った。

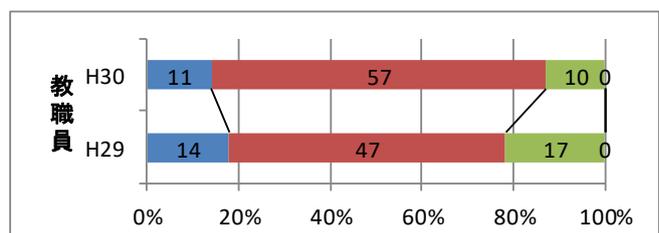
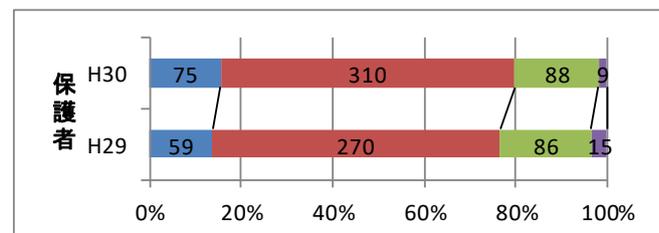
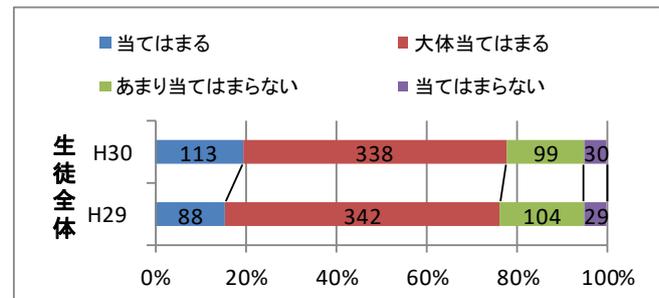
<改善に向けた取り組み>

生徒会活動

登米総TSS確立に向けた具体的取組の計画のために，後期生徒総会において，各クラスで検討する

具体例

- ① 生徒会，クラス代議員によるスローガン作成
- ② スローガン実現のための具体的取組の検討
- ③ 具体的取組を各種委員会において実行
- ④ 既存の行事を活用し，PTAと連携した活動の実施



7. 有意義な学校行事がある（学校行事）

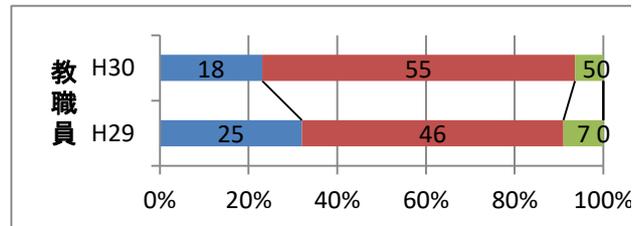
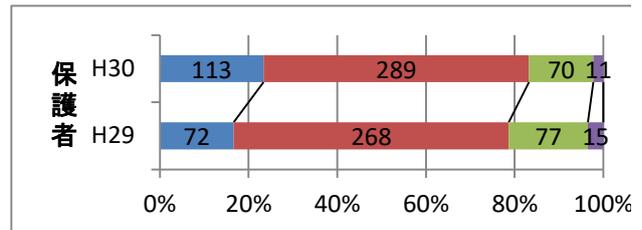
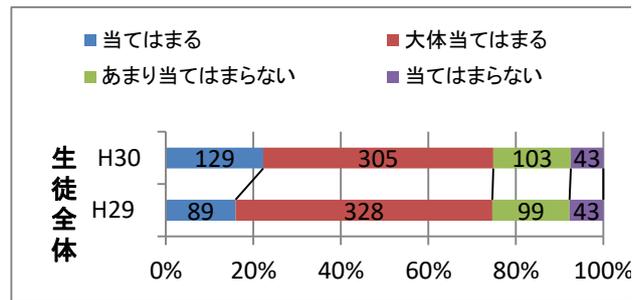
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

肯定的回答が生徒1%、保護者5.1%、教職員2.5%と3者とも上昇した。生徒の肯定的回答が生徒会活動とともに80%を下回る割合となった。

<改善に向けた取り組み>

生徒自ら主体的に活動できる環境作りのためにLHRの計画的な実行が必要である。



8. 地域の人とかかわる機会を多く取り入れている（特色ある学校づくり①）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

生徒全体では昨年度に比べて肯定的な意見の割合は上昇したが、学年で見ると2学年が若干低くなっている。1学年は「産業基礎」、3学年は「起業実践」での地域の方々と関わっているためと考えられる。

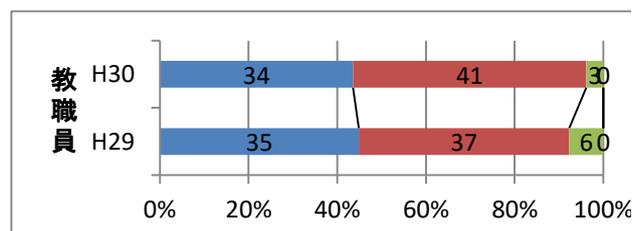
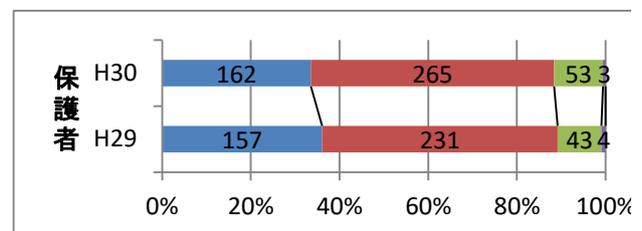
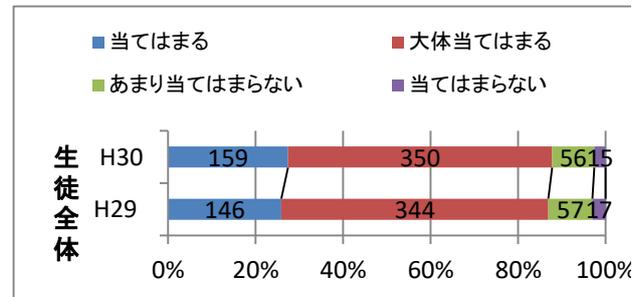
保護者についても同様の傾向があるが、全体では昨年度に比べて肯定的な意見の割合は若干下降している。

職員については、肯定的な意見の割合が上昇している。

生徒、保護者、職員とも肯定的な意見の割合は80%後半から90%後半になっており、本校の特色が内外の理解を得られるようになってきた。

<改善に向けた取り組み>

来年度は2学年でインターンシップを実施することになっており、2学年生徒、保護者の肯定的な意見が上昇すると思われる。また、保護者に対しては学校ホームページなどを利用して情報を発信していきたい。



9. 専門性を生かすなど特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり②）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

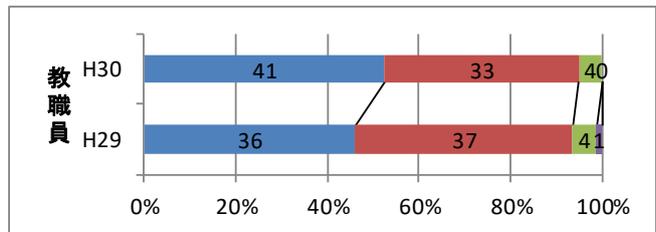
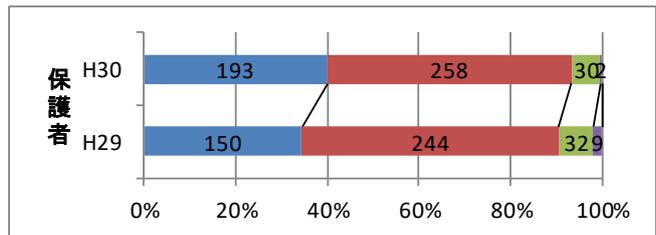
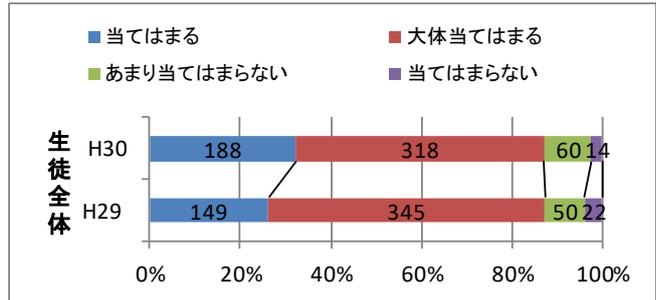
生徒全体では昨年度に比べて肯定的な意見の割合は、ほぼ同等（0.1ポイント下降）であった。学年でみると1, 3学年はどちらも94.4%であったのに対し、2学年は80.3%となった。

保護者については全学年肯定的な意見の割合は90%を超えており、全体でも昨年度よりも肯定的な意見の割合は上昇している。

職員についても同様である。生徒、保護者、教職員とも肯定的な意見の割合は87.2%から94.9%になっており、意見の乖離は見受けられない。

<改善に向けた取り組み>

今年度同様取り組んでいく。



10. 災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている（防災教育）

【分析および改善に向けた取り組み】

「災害・非常時の避難方法や連絡方法が伝えられている。」

<分析>

[前年度との比較から]

・肯定的な回答について

【生徒全体】…部分として「当てはまる」は増加傾向。全体としてみた場合、減少傾向にある。

【保護者】…低下。

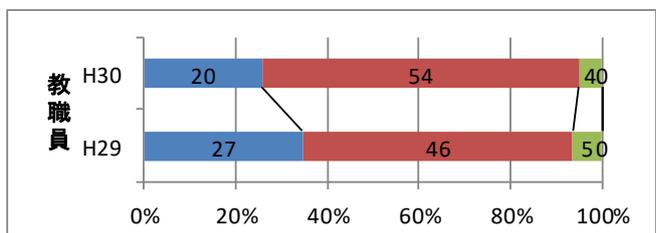
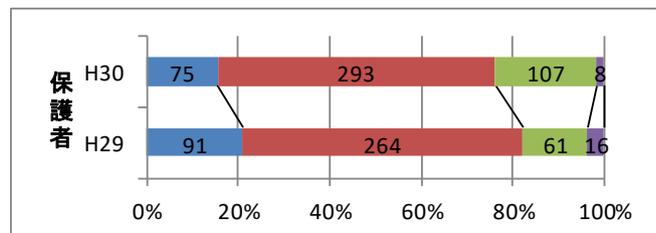
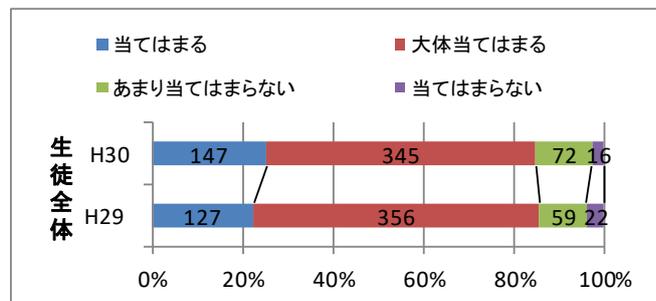
【教職員】…全体としてみた場合、やや増加傾向にある。

[自由記述欄から]

・今年度、生徒・保護者から寄せられたご意見の多くが、「臨時休校有無」の一斉メール連絡の不調に関するものであった。

<改善に向けた取り組み>

・今年度、委託業者のある地域が停電被害に遭い、一斉配信できなくなりました。ホームページ等で対応したが、今後は、システムの不調時にどのように対応していくか、考えていく必要がある。全体で考えていきたい。



1.1. 配布物などによって、学校の情報が適切に伝えられている（開かれた学校づくり）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

「当てはまる」と「だいたい当てはまる」の割合の合計（肯定的意見）は、生徒73%、保護者88%、教員100%であり、前年度に比べ、生徒が14ポイント減、保護者5ポイント減となった。

「学校だより」の月1回発行と生徒・保護者へのメール配信は前年度同様に取り組んだが、今年度はHPやブログの更新に特に力を入れていただけに残念である。（4～12月末時点でのブログ更新数132件（H29年度122件））

大型台風の影響で契約業者のメールサーバーがダウンし、緊急メールを送信できなかったことが1回あり、HPで通常登校を通知したことが関係したか、あるいはアンケートの文言で「配布物などによって」とあるため、紙媒体の情報が多くなかったという印象もあるのではないかと考えられる。

<改善に向けた取り組み>

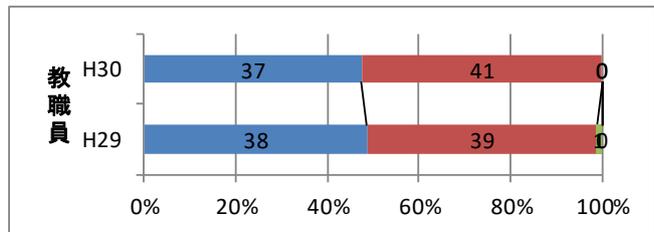
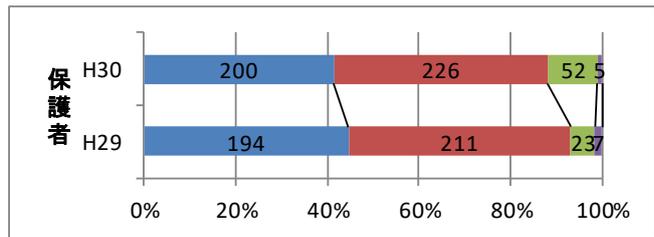
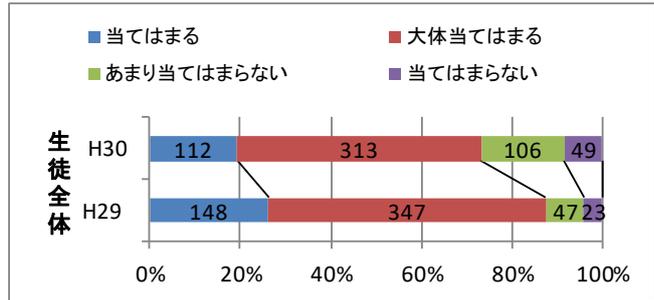
1 タイムリーな情報伝達のため、引き続き「学校HP」、
「一斉メール配信システム」などの情報ネットワークを利用した情報の発信に努めるとともに、学期末等には「学年だより」や「クラス通信」など、紙媒体での情報発信も検討する。

2 一斉メール配信システムは、生徒・保護者に対する学校HP更新情報の発信手段及び災害時連絡手段としても活用することから一層の登録率の向上を図る。

現時点での登録率は、「生徒又は保護者のいずれか」が登録している家庭は92%である。

<一斉メール配信システムの登録率>

	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度
生徒のみ	70.5%	66.4%	63.8%	44.0%
保護者のみ	87.3%	78.4%	70.5%	51.7%
生徒保護者いずれか	91.5%	88.0%	—	—



1.2. 校舎やグラウンドなどの施設や設備が整備されている（施設設備）

【分析および改善に向けた取り組み】

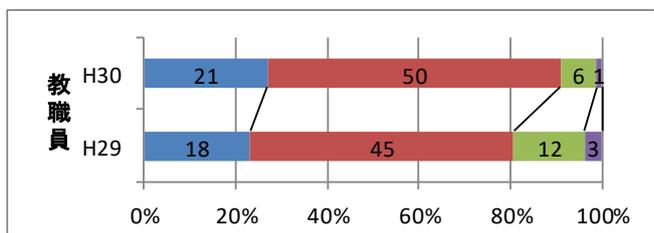
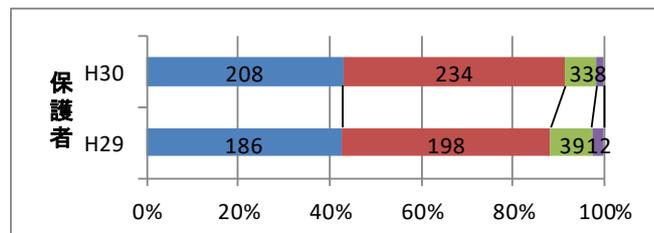
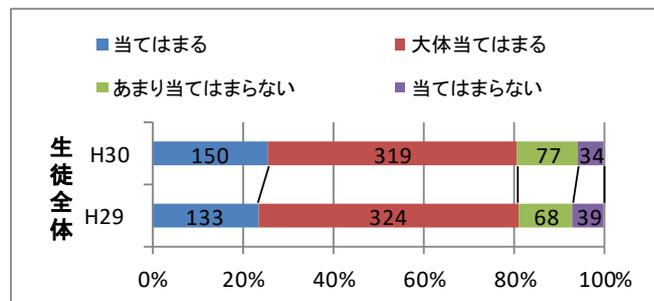
<分析>

○「当てはまる」、「大体当てはまる」が保護者・職員とも90%を超えている。生徒においては80.5%であり前年度とほぼ同じである。部活動に関する施設の要望があるものと思われる。

○校舎等の施設整備が完了したことにより、今後は施設を使用していくうえでの要望等がでて来ることが予想される。

<改善に向けた取り組み>

○新しい校舎ではあるが、施設の修繕が多くなっているので関係する分掌部・科と連携を取りながら可能な範囲で対応していきたい。ハード面の増設については、関係機関と協議しながら計画的に要求をしていく。



1.3. 日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる（いじめ問題）

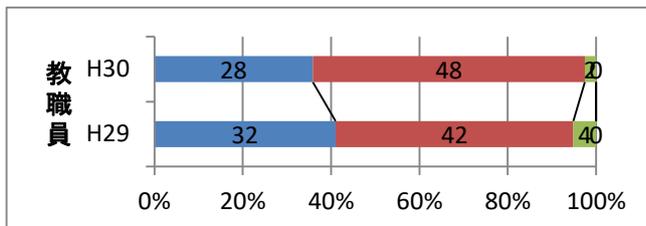
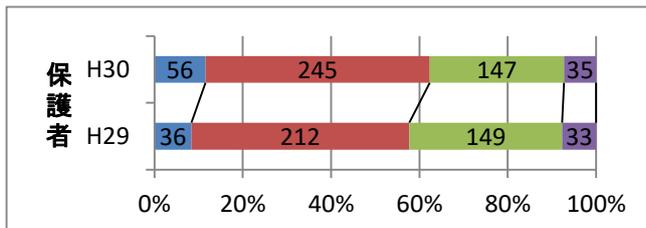
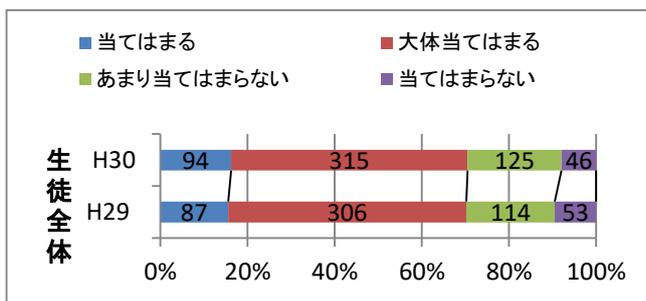
【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

肯定的回答が生徒1%、保護者5.3%、教職員2.6%と僅かであるが昨年度より上昇している。組織としての体制整備が少しずつ進んでいる結果だと考える。また、昨年示した具体的な取組の成果であるとも考える。しかし、保護者の肯定的回答が60%台であることは率直に受け止めなければならない。

<改善に向けた取り組み>

いじめは早期発見・早期対応が基本である。常に我々教職員がアンテナの感度を高くしながら積極的生徒指導に徹していくことが重要である。また、毎月行っているアンケート調査の実施形態の変更を行い、生徒が訴えやすい環境作りを力を入れたい。具体的には、周りの生徒の目を気にせず解答できるように、家庭に持ち帰り記入する形で実施するなど試みたい。



1.4. 環境美化に取り組んでいる（環境美化）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

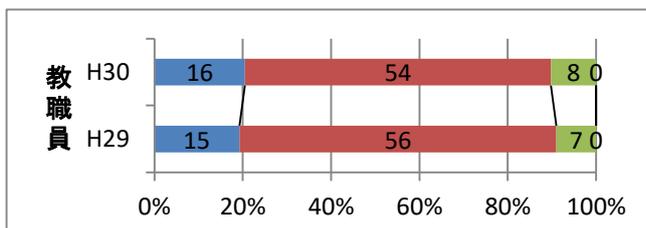
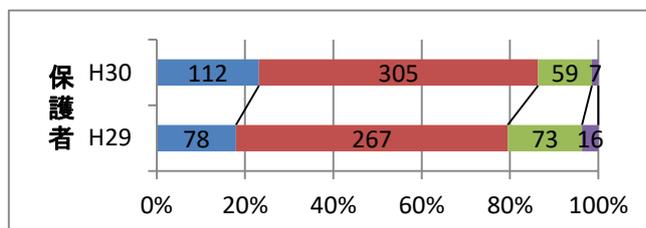
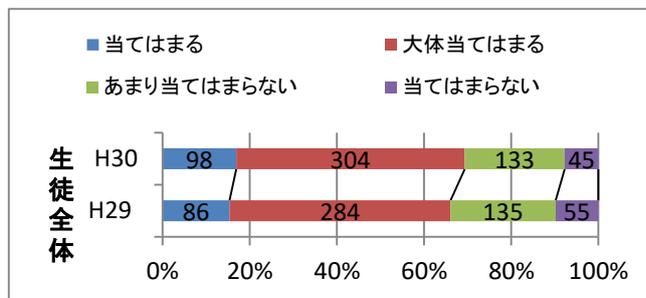
平成28～30年度の3年間で肯定的意見の割合は以下のような推移であった。

生徒52.3→66.1→**69.3%** 保護者75.0→79.5→**86.3%** 教職員49.3→91.0→**89.7%**と、保護者の肯定的評価が8割を超えたことは喜ぶべきことであるが、教員の評価が微減に加え、生徒からの評価はまだ7割に満たない。自由記述で、生徒の取り組み・教員の清掃指導共に意識の差があるという意見をいただいた。また、廊下・階段の綿埃がひどいとの指摘もあったが、飲みこぼしの後がほとんど見られなくなったのは、清掃担当の先生方と生徒の日々の努力によるものである。

まだできていない部分はあるものの、清掃・環境美化に取り組む生徒・教職員の意識は過去3年間で向上し続けていると感じる。今後は、清掃した校舎をいかにきれいな状態で維持していくか、生活面や公共意識向上のための啓蒙活動が必要と感じる。

<改善に向けた取り組み>

廊下・階段の分担区工夫と清掃用具の充実を図る。清掃の仕方や生徒への仕事割当を提示し、全生徒が清掃に取り組むよう働きかける。保健委員の生徒による清掃点検を定期的に行い、啓蒙ポスター掲示をする。



15. 学校生活は充実している（総合満足度）

【分析および改善に向けた取り組み】

<分析>

「当てはまる」と「だいたい当てはまる」の割合の合計（肯定的意見）は、生徒78%、保護者84%であり、前年度に比べ、生徒が1ポイント増、保護者0.9ポイント増となった。

「魅力人気N.1の登米総！」を合い言葉に、生徒職員ともに具体的な生活目標「登米総スタンダード」を掲げて、意識的に取り組んでいる成果と考える。特に部活動が活性化してきており、各種大会で上位入賞を果たし、表彰式で多くの生徒が登壇したことも大きく影響していると考えられる。

<改善に向けた取り組み>

学習面や部活動などでしっかりとした目標を掲げて学校生活を送っている生徒は充実感を持って取り組んでいると思われる。年度始めに個々の目標を明確にするとともに、定期的に振り返りの機会を持つなど、主体的に学校生活を送られるよう、働きかけを工夫する。

引き続き登米総スタンダードの確立を目指すとともに、学校生活のより一層の充実（学校満足度向上）のため、生徒と教員が問題意識の共有化を図り、チーム「登米総」一丸となり、取り組んでいく。

